

ご挨拶

(一社) 東北地質調査業協会 理事長 **奥山 清春**



日頃より当協会の事業運営に対しまして、格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて今年の冬は、去年の雪不足、暖冬といったことから一変し、各地豪雪などによる被害が出るほど大変な状況です。毎年の気象状況が極端な振れ幅で推移し、これからも異常気象とも思えるこのような状況も毎年覚悟していかなければ、と考えさせられます。

このような状況にて、毎年大きな災害が日本各地で起き、去年も日本各地、東北各地で豪雨により多くの甚大な被害が発生しました。当協会も災害協定に基づき対応させていただき、緊急施工した企業の皆様に改めて御礼申し上げます。被災された地域の皆様には、1日も早い復興・復旧をお祈り申し上げます。このように自然災害の脅威が毎年続き、社会資本整備や既存のインフラの維持管理、災

害復興・復旧等ますます我々の地域での役割の重要性が増し、会員各社の責任も増していると感じます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で世の中が一変いたしました。世界、日本各所でも多大な影響を受け、2020東京オリンピックも1年間の延期をはじめ、様々な行事や催しが延期、中止という状況になりました。私ども東北地質調査業協会でも5月に予定されておりました定時の総会が書面総会になり、また7月の地質調査技士などの検定試験、10月に岩手で行われる予定でありました臨時総会なども中止となり、本年の1月に予定しておりました賀詞交歓会も中止いたしました。

一方このような厳しい状況下でも感染拡大予防を徹底しながら、東北地方整備局との意見交換会、宮城県土木部との意見交換会、仙台工業高校への出前講座を2回実施し、技術者セミナーも関係各所のご協力のもと実施することが出来ました。

.....

また（一社）日本応用地質学会東北支部と今後の協力や災害個所の現地調査をはじめ、応用地質分野に関わる情報交換を綿密にできるよう協定を締結いたしました。改正品確法のもと、生産性の向上、工期の平準化など、我々地質調査業が明確に法律の対象となり責任も増しています。さらに昨今は地盤情報の把握不足による工事の手直しや瑕疵など地質リスクに対する実情を踏まえることが益々高まり、発注者様の期待に応えることがさらに重要となっております。また今後は経験したことの無いようなスピードで世の中はDX（デジタルトランスフォーメーション）も進み、我々業界も対応が迫られてくると考えられます。このような社会情勢をしっかりと把握したうえで、業界を通じて、協会員一丸となってより一層前進するよう取り組んでまいりたいと思います。

今後とも様々な情報や地域の諸問題を共有し、災害等への準備も常に心に留め、

またコロナ禍が収束し新しい年が会員皆様にとって良い年となるよう祈念いたしまして年頭のご挨拶に替えさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。